

□ **始めに、著者：ミシェル・フーコーについて**

Michel Foucault 1926-1984 フランスの哲学者。ポワチエ医師の長男として生まれ、高等師範学校時代にアルチュセールの指導を受けた。クレルモン＝フェラン大学、パリ大学ヴァンセンヌ校の教授を経て、1970年から没年までコレージュ・ド・フランス教授。その講座名<思考体系の歴史>が研究内容を端的に表す。だが単なる大学人ではなく、合衆国や日本を訪れた1970年代以後ほぼ毎年、海外各地でも講義を行い、政治的にも活動した。サルトル亡きあと、西欧で最も重要かつ最先端をゆく行動的思想家の一人であった。

『監獄の誕生』について

フーコーの業績を三期に分けると、

第一期：知と言語の構造

第二期：第一期を発展させた、知の理論的基盤の精査としての認識論

第三期：権力と政治

であり、監獄の誕生は第三期の著作である。この著作において、刑罰の近代化を（1）君主による身体刑から（2）再犯防止と社会秩序の維持を主眼とした18世紀の刑罰改革論を経て、（3）「全体的であると同時に細部まで目を光らせる権力行使の形態に服従する主体を形成すること」をねらった管理・矯正装置＝監獄の誕生にいたる過程として描きだした。

以上、参考文献：岩波哲学・思想事典。

□ **第三節 第一章 従順な身体**

○兵士の育成

- ・17世紀：兵士にふさわしい身体的な特徴を備えている人物を育成。
- ・18世紀：兵士にふさわしい人物へと育成。

人がある役に適した人物へと変えるために、身体が機械的な扱われ方をする。

○権力の対象・標的としての身体の発見

- ・古典主義時代によってなされた。
- ・ラ・メトリーによる『人間＝機械論』は二つの領域について書かれていた。一つは哲学者、医者たちが継承した人間の器官についての研究、解剖学＝形而上学の領域。いま一つは、軍隊、学校、施療院などにおける技術＝政治の領域である。

※古典主義時代

※ジュリアン・オフレ・ド・ラ・メトリー Julien Offray de La Mettrie

○今までと何が違うか？

- ・18世紀のこれらの従順さに対する関心は、それまでと次の点で違っていた。
- ① 取り締まりの尺度：おおざっぱな一塊として身体を扱うのではなく、それを細部に分けることで、身体への影響を確実に伝えるようにしたこと。
- ② 取り締まりの客体：身体の持つ意味表示的な構成要素ではなく、体力を問題にしたこと。
- ③ 取り締まりの様相：活動の結果だけに向けられるのではなく、その過程を最大限に詳細な基盤目状に分割し、それに対して恒常的に働きかける。
- ・これら方法によって従順＝効用の関係を体力に強制する方法こそ「規律・訓練 discipline」と呼ぶにふさわしい。

○奴隷制との違い。

- ・規律・訓練の方法はずっと以前から、修道院や軍隊、仕事場にも存在していたが、これが一般的な物となったのは17、18世紀である。
- ① 身体の占有に基づかない。しかも、効用と言う点では奴隷制に引けを取らない。
- ② 奉公人の主従関係のように、主人の気分による非分析的で限度の無い支配関係ではない。
- ③ 封臣関係のように、高度に記号体系化されているが遠回りの服従関係、身体の運用よりも労働の成果と祭式中心の忠義のしるしによる服従関係でない。
- ④ 禁欲的な苦行や修道院型の「規律・訓練 discipline」とも異なる。

○このような規律・訓練の両義的側面

- ・一つのメカニズムの中で、人々が持つ力に対して二つの効果を生むことを目標

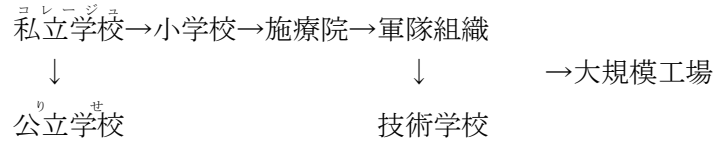
とされている。一つは力や素質を増大させ、有用さ、能力に変えること。もう一つは体力や強さといった性質を反転させ、服従関係に変えることである。

- ・これはつまり、権力の力学の一種である「政治解剖学」が誕生しつつあるのであり、このときの「解剖学」はその程度によって政治的な身体拘束の方法を定義するのである。

○政治解剖学の考案

- ・これは突然に発見されたものではない。起源や出所もばらばらな、些細な過程の多種多様な集まりである。
- ・それら諸過程は産業上の改革、伝染病の再発、鉄砲の発明、プロシア軍の勝利など局面における要請に応えるために広がった。

政治解剖学の広がる過程



- ・個別的な諸層ではなく一連の範例の中に、これらのうちで根本的、一般的なものを見出すことが重要である。なぜなら、これら綿密であるが微細な技術こそが、17世紀以来社会全体に普及し続けてきたのであり、また処罰制度の変異をもたらしたのであるから。これは、何もかもに意味を見出すと言う理性の策略というよりか、何もかもに自分の穀粒を見出す「悪意」のそれである。

○細部

- ・実利をめざした細部の合理的組織化の歴史は、古典主義時代において、微積分の計算や生物の微細な性格の記述などの影響のもと、促進され、尺度を変更し、精密な道具を提供した。
- ・「細部」はそれよりもっと前に、神学や禁欲主義に含まれる一つのカテゴリであった。どんな細部であっても、真の信仰心の前ではないがしるにされるべきではないのである。（ジャン＝バティスト・ド・ラ・サール『キリスト教学校同胞会の義務論』）
- ・学校や兵営、施療院では、これら微細なもの、無限なものへの一途な信心に、脱宗教的な内容や経済中心の合理的組織を与えたのである。
- ・ライプニッツやビュフォン、フリードリヒ二世、教育学、医学、軍略、経済、ナポレオンなどがその影響を受けた。
- ・こうした些事から、近代ヒューマニズムにおける人間が誕生したに違いない。（軍事・医療・学校・産業とうの分野において）

配分の技術

身体が機械的に扱われる際、これが空間・時間的にどう配分されるか。

- ・各個人の空間への配分
- ・空間への配分はその空間を「閉鎖」することによる閉じ込めである。
例、私立学校 兵営 大規模な製造工場
- ・空間を区切る仕切りが仮に理念的なものであったとしても、本質的には修道院の持っていた独房の建築、宗教の性質を持っている。しかし、克己による禁欲よりも、規律・訓練はより目的に対して完成された形式を持っている。
- ・規律・訓練中心の諸施設では、さまざまな問題に対処する方法と有効に目的に対処する方法が一体となっている。
- ・これら空間は身体を支配するとともに有益に扱うべく記号体系化されていく。各自の持つ仕事の種類と能力とうにより分類され、さまざまな状況に応じて各人は基盤目の上を絶えず移動させられる。雑然として無秩序な多数の人間を、秩序づけられた多様性に変えることは、権力の技術であると同時に知の手段でもあった。

活動の取り締まり

- 1、時間割
規律・訓練の時間に関する基本的な徳目である。
- 2、時間面での行為の磨き上げ
時間割とともに与えられるのは、それによって行為自体の磨き上げを確実に言うということである。このように時間区分面における図式が規定され、行為は諸要素に分解され、一つ一つの動作に与えられた順序によって時間が身体深くにし

みわたるのである。

3、身体と身振りの相関化

身体を時間的に区分することによって、ある行為に最適な身振りというもの強制される。

4、身体＝客体の有機的配置

身体は、客体の使用から要請される道具本位による記号体系化を施される。かつて身体に求められたのは表徴、所産であったが、規律・訓練における権力においては、身体と客体を総合し、これと強制的に関係づける機能が求められる。このような客体との間の義務的な関係を迫る方法は「操練 manœuvre」と呼ばれる。

5、尽きざる活用

このような時間の使用によって、怠惰を諫めて時間を使うというような考えとは違い、これら時間からなるべく多くの利益を得ようとする時間の尽きざる消費という考えが生まれる。

段階的形成の編成

時間と身体の力の管理するため、ときの流れの累積を確かなものにするためなど、様々な目的のためにこれは行われる。その方法は四つあって、第一に到達すべきも線分を設けること、第二にそれらの段階を分析的な図式に基づいて編成すること、第三に時間だけでなく試験という目標を設けること、最後に分化したそれぞれの訓練のうち必要なものを与えることである。

これらの試みは広く採用され、それまでの一律で一面的な教育現場の姿を変えることとなった。それは線形の時間を生み出し、段階的な形成と進歩発展という考え方に基づく。それらによって与えられるのは、個人の内面における彼岸への高まりではなく、政治的技術による終わりの無い服従強制である。

さまざまな力の組み立て

これら時間や身体、建築と同様に、人をいかに集団として扱うかという点に関しても変化が起こった。力を組み立てて有用な仕組みを作り出すことも一つの技術である「戦術」^{タクティック}となったのである。

1、一つの身体は人々により配置され、他の身体を連結する一つの要素となる

これは集団を支える装置として、線分として扱われる身体のことを指しているのである。

2、時間的な継起としての身体

ある人の時間を他の人の時間と組み合わせる際、各人から最大量の力を引き出せるようにしなければならない。

3、正確な命令組織の必要

そのような命令は時間的な区切りを支えるためのものであり、あるきっかけを与えるだけで十分なものである。

18世紀に「戦術」が生まれた背景。

『「戦術」とは持ち場の指定された身体、記号体系化された活動、養成された能力などを用いて仕組みをつくりあげ、そこでは各種の力の所産をそれらの力の計画的な組み合わせによって増大させる技法であって、こうした戦術は規律・訓練の実務の最高形式といってよいだろう。P170』

戦略に伴う巨大な軍隊を管理し、その存在を意義づけるものとしての戦術は誕生し、そのようなものの中に期待を託した。